



CHAPTER 4

CTMS Set コマンド

この章では、次の Cisco TelePresence Multipoint Switch (CTMS) **set** CLI コマンドについて説明します。CTMS CLI コマンドの使用の詳細については、このマニュアルの「Cisco TelePresence Multipoint Switch CLI コマンドの使用」を参照してください。

- 「[set account](#)」 (P.4-3)
- 「[set bad_ep_detect](#)」 (P.4-4)
- 「[set commandcount](#)」 (P.4-5)
- 「[set conferencetermination](#)」 (P.4-6)
- 「[set cuvc dialrepeatinterval](#)」 (P.4-7)
- 「[set cuvc dialrepeattime](#)」 (P.4-8)
- 「[set damping](#)」 (P.4-9)
- 「[set feedbackwaitbasetime](#)」 (P.4-10)
- 「[set holdresume](#)」 (P.4-11)
- 「[set lateendmins](#)」 (P.4-12)
- 「[set logging](#)」 (P.4-13)
- 「[set ltrp](#)」 (P.4-14)
- 「[set network dhcp eth0](#)」 (P.4-15)
- 「[set network dns](#)」 (P.4-16)
- 「[set network dns options](#)」 (P.4-17)
- 「[set network domain](#)」 (P.4-18)
- 「[set network failover](#)」 (P.4-19)
- 「[set network gateway](#)」 (P.4-20)
- 「[set network hostname](#)」 (P.4-21)
- 「[set network ip eth0](#)」 (P.4-22)
- 「[set network max_ip_contrack](#)」 (P.4-23)
- 「[set network mtu](#)」 (P.4-24)
- 「[set password admin](#)」 (P.4-25)
- 「[set rtps sleep](#)」 (P.4-26)
- 「[set snmp trapdest add](#)」 (P.4-27)

- 「set snmp trapdest del」 (P.4-28)
- 「set snmp user add」 (P.4-29)
- 「set snmp user del」 (P.4-30)
- 「set syslog facility」 (P.4-31)
- 「set syslog heartbeat facility」 (P.4-32)
- 「set syslog heartbeat interval」 (P.4-33)
- 「set syslog heartbeat msg」 (P.4-34)
- 「set syslog heartbeat severity」 (P.4-35)
- 「set syslog timezone」 (P.4-36)
- 「set syslog version」 (P.4-37)
- 「set threshold」 (P.4-38)
- 「set timezone」 (P.4-39)
- 「set web-security」 (P.4-40)
- 「set workingdir activelog」 (P.4-41)
- 「set workingdir inactivelog」 (P.4-42)



(注)

CTMS Administration ソフトウェアの使用方法的詳細については、次の URL に掲載されている『Cisco TelePresence Multipoint Switch Release 1.5 Administration Guide』を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps7315/prod_maintenance_guides_list.html

set account

`set account name`

シンタックスの説明

<i>name</i>	管理アカウントの名前。
-------------	-------------

コマンドモード

Admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン

新しい管理アカウントを作成するために使用します。アカウントの作成時に、該当する権限レベルとパスワードを入力するように求められます。

例

```
admin:set account test2

Please enter the privilege level :1
  Please enter the password :*****
    re-enter to confirm :*****
```

set bad_ep_detect

```
set bad_ep_detect {enable | disable}
```

シンタックスの説明

enable	不良エンドポイント検出機能をイネーブルにします。検出した場合、CTMS では、不良エンドポイントを会議からドロップします。
disable	不良エンドポイント検出機能をディセーブルにします。

コマンドモード

Admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
1.1	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン

不良エンドポイント検出機能をイネーブルまたはディセーブルにするために使用します。このコマンドを **enable** に設定した場合、不良な発信元エンドポイントは会議からドロップされます。**disable** に設定した場合、不良エンドポイントは会議中維持されます。

例

```
admin:set bad_ep_detect disable
Telepresence Multipoint Switch; drop bad endpoint: disable
```

set commandcount

set commandcount {enable | disable}

シンタックスの説明	enable	コマンド数計算機能をイネーブルにします。 enable を使用すると、CLI コマンドプロンプトには、実行された CLI コマンドの数を示す数値が表示されます。
	disable	コマンド数計算機能をディセーブルにします。 disable を使用すると、CLI コマンドプロンプトには、実行された CLI コマンドの数を示す数値が表示されなくなります。

コマンドモード Admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.1	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン コマンド数計算機能をイネーブルまたはディセーブルにするために使用します。このコマンドでは、実行された CLI コマンドの数を示す数値を表示するように CLI コマンドプロンプトを変更します。この設定は、現在のセッションにだけ有効です。

例

```
admin:set commandcount enable
admin 0005:
```

set conferencetermination

set conferencetermination {true | false}

シンタックスの説明

true	スケジュール会議の会議終了をイネーブルにします。
false	スケジュール会議の会議終了をディセーブルにします。

コマンドモード

Admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
1.1	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン

スケジュール会議の会議終了をイネーブルまたはディセーブルにするために使用します。



(注) このコマンドは、CTMS を Cisco TelePresence Manager に登録すると有効になりますが、Cisco TelePresence Manager でサポートされていません。

例

```
admin:set conferencetermination true
```

set cuvc dialrepeatinterval

set cuvc dialrepeatinterval *number*

シンタックスの説明	<i>number</i>	CTMS システムが CUVC にリダイヤルする間隔 (秒単位)。デフォルトは 30 です。
-----------	---------------	--

コマンド モード	Admin
----------	-------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.1	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン CTMS が CUVC 参加者にリダイヤルする時間を秒単位で設定するために使用します。

例 admin: `set cuvc dialrepeatinterval 30`

set cuvcldialrepeattime

set cuvcldialrepeattime *number*

シンタックスの説明	<i>number</i>	CTMS が CUVC 会議参加者にリダイヤルする回数。デフォルトは 50 です。
------------------	---------------	---

コマンド モード	Admin
-----------------	-------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.1	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン CTMS が CTMS 会議参加者にリダイヤルする回数を設定するために使用します。

例 admin: set cuvcldialrepeattime 10

set damping

set damping {s | l | b | o} {fast | medium | slow}

シンタックスの説明		
s		スイッチングモード。スイッチング ダンプニングとは、スピーカーをアクティブに切り替えるために、話し続ける必要がある時間のことです。
l		講義モード。講義ダンプニングとは、講義モードを中断するために、講師以外の人が話し続ける必要がある時間のことです。
b		バウンスモード。バウンス ダンプニングとは、バウンスバック ソースを無効にするために、話し続ける必要がある時間のことです。
o		無効モード。無効ダンプニングとは、バウンスバック ソースが無効になってから、元に戻るまでの時間のことです。
fast		高速モードの速度：.5 ～ 1.5 秒。
medium		中速モードの速度：1.5 ～ 2.5 秒。
slow		低速モードの速度：2.5 ～ 3.5 秒。

コマンドモード Admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.1	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン スイッチングのダンプニング値を設定するために使用します。

例 admin:set damping s fast

set feedbackwaitbasetime

set feedbackwaitbasetime *value*

シンタックスの説明

<i>value</i>	RTP フィードバックの基本待機時間をミリ秒で設定します。値は 30 ~ 400 です。デフォルトは 150 です。
--------------	--

コマンド モード

Admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
1.1	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン

RTP フィードバックの基本待機時間をミリ秒で設定するために使用します。実際のフィードバック待機時間は、最大遅延値にフィードバックの基本待機時間を足した時間です。

例

```
admin:set feedbackwaitbasetime 200
```

set holdresume

set holdresume {true | false}

シンタックスの説明	true	定例会議とスケジュール会議に対するサーバ側の保留/復帰機能をイネーブルにします (ユーザには砂時計アイコンが表示されます)。
	false	定例会議とスケジュール会議に対するサーバ側の保留/復帰機能をディセーブルにします (ユーザにはブランク画面が表示されます)。

コマンドモード Admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.1	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン

定例会議とスケジュール会議に対するサーバ側の保留/復帰機能をイネーブルまたはディセーブルにするために使用します。



(注) **set holdresume false** コマンドを実行して保留/復帰をディセーブルにした場合、システムは次のような影響を受けます。

- セキュア エンドポイントだけが接続しているベストエフォート会議の場合、ノンセキュア エンドポイントは参加できません。
- ノンセキュア エンドポイントだけが接続しているベストエフォート会議の場合、セキュア エンドポイントは参加できません。

set holdresume true コマンドを実行して保留/復帰をイネーブルにした場合、前述の制限はすぐなくなります。

例 admin: **set holdresume true**

set lateendmins

`set lateendmins value`

シンタックスの説明

<i>value</i>	会議の終了予定時刻を過ぎたときに、その会議を終了するまでの分数。
--------------	----------------------------------

コマンド モード

Admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
1.1	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン

会議の終了予定時刻を過ぎたときに、その会議を終了するまでの分数を定義するために使用します。



(注) このコマンドは、CTMS を Cisco TelePresence Manager に登録すると有効になりますが、Cisco TelePresence Manager でサポートされていません。

例

```
admin: set lateendmins 3
```

set logging

set logging {enable | disable}

シンタックスの説明

enable	ロギングをイネーブルにします。
disable	ロギングをディセーブルにします。

コマンドモード

Admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
1.1	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン

ロギングをイネーブルまたはディセーブルにするために使用します。

例

```
admin:set logging enable
```

set ltrp

set ltrp {enable | disable}

シンタックスの説明	enable	Long Term Reference Picture (LTRP) 機能をイネーブルにします。
	disable	Long Term Reference Picture (LTRP) 機能をディセーブルにします。

コマンドモード Admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン Long Term Reference Picture (LTRP) 機能をイネーブルまたはディセーブルにするために使用します。

例 `admin:set ltrp enable`

set network dhcp eth0

set network dhcp eth0 {enable | disable node_ip net_mask gateway_ip}

シンタックスの説明	enable	Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を使用するようにイーサネット インターフェイスを設定します。
	disable	DHCP を使用しないようにイーサネット インターフェイスを設定します。
	node_ip	ノード IP アドレス。
	net_mask	サブネット マスク。
	gateway_ip	ゲートウェイ IP アドレス。

コマンド モード Admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) がイネーブルになっていない場合、このコマンドで **enable** キーワードを指定して、DHCP を使用するようにイーサネット インターフェイスを設定し、システムを再起動します。

DHCP がイネーブルになっている場合、このコマンドで **disable** キーワードを指定して、DHCP を使用しないようにイーサネット インターフェイスを設定し、システムを再起動します。

例

```
admin:set network dhcp eth0 enable
      *** W A R N I N G ***
This will cause the system to restart - Do you want to continue ?
Enter "yes" to continue and restart or any other key to abort
yes
executing...
Broadcast message from root (Thu Jun 24 13:00:21 2004):

The system is going down for restart NOW!

admin:set network dhcp eth0 disable 1.2.3.4 255.255.255.0 5.4.3.2
      *** W A R N I N G ***
This will cause the system to restart - Do you want to continue ?
Enter "yes" to continue and restart or any other key to abort
yes
executing...
Broadcast message from root (Thu Jun 24 13:00:21 2004):

The system is going down for restart NOW!
```

set network dns

`set network dns {primary address | secondary address}`

シンタックスの説明

primary address	プライマリ Domain Name System (DNS; ドメイン ネーム システム) サーバの新しいアドレスを定義します。address の値は、有効なドット付き 10 進 IP アドレスです。
secondary address	セカンダリ DNS サーバの新しいアドレスを定義します。address の値は、有効なドット付き 10 進 IP アドレスです。

コマンドモード

Admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
1.1	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン

プライマリまたはセカンダリ DNS サーバの新しい IP アドレスを定義するために使用します。ネットワーク接続が一時的に切断されます。新しいアドレスの定義を続行する場合は、**Yes** を入力します。続行しない場合は、その他のキーを押して打ち切ります。

例

```
admin:set network dns primary 1.2.3.4
*** WARNING ***
This will cause the system to temporarily lose network connectivity
Do you want to continue?
Enter "yes" to continue or any other key to abort
yes
```


set network dns options

set network dns options [timeout *value*] [attempts *value*] [rotate]

シンタックスの説明	timeout <i>value</i>	attempts <i>value</i>	rotate
	ドメイン ネーム システム (DNS) クエリーが失敗したと見なすまでに CTMS が待機する時間を定義します。 <i>value</i> には秒数を指定します。	DNS クエリーが失敗したと見なすまでに CTMS がそのクエリーを繰り返す回数を定義します。 <i>value</i> には試行回数を指定します。	DNS サーバとの通信方法 (ラウンドロビン方式) を定義します。このオプションを指定すると、負荷が DNS サーバに分散されます。

コマンド モード Admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン DNS サーバとの通信方法、DNS クエリーが失敗したと見なすまでの時間と再試行の回数など、DNS サーバと通信するときの省略可能な機能を設定するために使用します。
ネットワーク接続が一時的に切断されます。

例

```
admin:set network dns options timeout 10
      *** W A R N I N G ***
This will cause the system to temporarily lose network connectivity

      Do you want to continue ?

Enter "yes" to continue or any other key to abort
yes
executing...
```

set network domain

`set network domain name`

シンタックスの説明

<i>name</i>	CTMS が常駐するドメイン名を定義します。
-------------	------------------------

コマンド モード

Admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン

CTMS のドメインを設定するために使用します。
ネットワーク接続が一時的に切断されます。

例

```
admin:set network domain cisco.com
*** WARNING ***
This will cause the system to temporarily lose network connectivity

Do you want to continue ?

Enter "yes" to continue or any other key to abort
yes
executing...
```

set network failover

set network failover {enable | disable}

シンタックスの説明	enable	disable
	ネットワーク フェールオーバーをイネーブルにします。	ネットワーク フェールオーバーをディセーブルにします。

コマンドモード Admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン

ネットワーク フェールオーバーをイネーブルまたはディセーブルにするために使用します。

ネットワーク フェールオーバーをイネーブルにした場合、イーサネット インターフェイス **eth0** を使用する仮想インターフェイス (**bond0**) が作成されますが、**eth0** に障害が発生した場合はイーサネット インターフェイス **eth1** にフェールオーバーします。3 つのインターフェイス (**bond0**、**eth0**、および **eth1**) は、同じ IP アドレスと MAC アドレスを共有します。

ネットワーク フェールオーバーをディセーブルにした場合、同じ設定パラメータでイーサネット インターフェイス **eth0** が復元され、仮想インターフェイス **bond0** は削除されます。

フェールオーバーを設定するには、システムを再起動する必要があります。

例

```
admin:set network failover enable
Creating virtual interface bond0 to failover ethernet interface eth0 to eth1
should eth0 fail.

*** WARNING ***
This will cause the system to restart - Do you want to continue?
Enter "yes" to continue and restart or any other key to abort
yes
executing...
```

set network gateway

`set network gateway address`

シンタックスの説明	<code>address</code>	新しいゲートウェイ IP アドレスを定義します。
-----------	----------------------	--------------------------

コマンド モード	Admin
----------	-------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン	新しいゲートウェイ IP アドレスを設定するために使用します。ネットワーク接続が一時的に切断されます。
------------	---



(注)	間違ったゲートウェイ アドレスを入力すると、このノードにネットワークでアクセスできなくなります。
-----	--

例

```
admin:set network gateway 192.168.1.1

*** WARNING ***
This will cause the system to temporarily lose network connectivity

Do you want to continue ?

Enter "yes" to continue or any other key to abort
```

set network hostname

`set network hostname name`

シンタックスの説明

<i>name</i>	ホスト名を定義します。
-------------	-------------

コマンドモード

Admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン

ネットワーク ホスト名を設定するために使用します。システムを再起動する必要があります。

例

```
admin:set network hostname myname
*** WARNING ***
This will cause the system to restart - Do you want to continue ?
Enter "yes" to continue and restart or any other key to abort
yes
executing...
Broadcast message from root (Thu Jun 24 13:00:21 2004):

The system is going down for restart NOW!
```

set network ip eth0

`set network ip eth0 address`

シンタックスの説明

<code>address</code>	イーサネット 0 の新しい IP アドレスとサブネット マスクを定義します。 <code>address</code> には、有効なドット付き 10 進 IP アドレスの後に、サブネット マスクの値を指定します。
----------------------	---

コマンド モード

Admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
1.1	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン

イーサネット 0 の新しい IP アドレスとサブネット マスクを定義するために使用します。このコマンドを実行すると、システムが自動的に再起動します。

例

```
admin:set network ip eth0 192.168.1.5 255.255.255.0
*** WARNING ***
This will cause the system to restart - Do you want to continue?
Enter "yes" to continue and restart or any other key to abort
yes
```

set network max_ip_contrack

set network max_ip_contrack *value*

シンタックスの説明

<i>value</i>	IP_contrack_max 値を定義します。
--------------	--------------------------

コマンドモード

Admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン

ip_contrack_max 値を設定するために使用します。

例

```
admin:set network max_ip_contrack 256000
```

set network mtu

`set network mtu value`

シンタックスの説明	<i>value</i>	MTU 最大サイズを定義します。標準サイズは 1500 です。
-----------	--------------	---------------------------------

コマンド モード	Admin
----------	-------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン	MTU 最大サイズを設定するために使用します。ネットワーク接続が一時的に切断されます。
------------	---

例	<pre>admin:set network mtu 576 *** W A R N I N G *** This will cause the system to temporarily lose network connectivity Do you want to continue ? Enter "yes" to continue or any other key to abort yes executing...</pre>
---	--

set password admin

set password admin

シンタックスの説明 なし

コマンドモード Admin

コマンドの履歴	コマンド	変更内容
	1.1	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン 新しい管理者パスワードを設定するために使用します。

(注) パスワードは 6 文字以上 64 文字以下である必要があります。大文字と小文字の英数字、下線、およびダッシュを使用できます。apache、daemon、nobody、operator、および shutdown というユーザ名は使用できません。

例

```
admin:set password admin
Please enter the old password: *****
Please enter the new password: *****
Re-enter new password to confirm: *****
```

set rtpslee

`set rtpslee value`

シンタックスの説明	<i>value</i>	RTP スリープの値を定義します。値は 1 ~ 5 です。
------------------	--------------	-------------------------------

コマンド モード	Admin
-----------------	-------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン	RTP スリープ値を設定するために使用します。
-------------------	-------------------------

例	<code>admin:set rtpslee 2</code>
----------	----------------------------------

set snmp trapdest add

`set snmp trapdest add version username destination [passphrase] [engineID] [level]`

シンタックスの説明		
<i>version</i>		Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) のバージョン (3 または 2c) を定義します。
<i>username</i>		SNMP ユーザ名 (バージョン 3) またはコミュニティ スtring (バージョン 2c) を定義します。
<i>destination</i>		宛先ホスト。形式は <code>n.n.n.n[:port]</code> です。
<i>passphrase</i>		SNMP バージョン 3 のみ。ユーザ パスフレーズを定義します。パスフレーズは、8 文字以上である必要があります。
<i>engineID</i>		SNMP バージョン 3 のみ。トラップに使用するエンジン ID を定義します。
<i>level</i>		SNMP バージョン 3 のみ。レベルを定義します。このフィールドに使用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • <code>authNoPriv</code> (デフォルト) • <code>authPriv</code> • <code>noauthNoPriv</code>

コマンドモード Admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン 簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) のトラップ宛先を設定するために使用します。

例

```
admin:set snmp trapdest add 2c trapcomm 64.101.180.49:162
Successfully added trap destination
```

set snmp trapdest del

set snmp trapdest del

シンタックスの説明 なし

コマンドモード Admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン 簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) のトラップ宛先を削除するために使用します。

例

```

admin:set snmp trapdest del
  1) Host = 64.101.180.49:162 (Version 3)

      Version 3 Options:
          User = TimTrap                PW = authpriv
          Level = authnopriv            Hash = md5
          EngineID = 0x80001f8803001a6406bc16

  2) Host = 64.101.180.49 (Version 3)

      Version 3 Options:
          User = TimTrap2                PW = authpriv
          Level = authnopriv            Hash = md5
          EngineID = 0x80001f8803001a6406bc16

  3) Host = 64.101.180.49:162 (Version 3)

      Version 3 Options:
          User = trapusr                PW = trappass
          Level = authnopriv            Hash = md5
          EngineID = 0x8000DEECAFE8111BEEFADE

Enter which trap number to delete: 2
Successfully deleted trap destination

```

set snmp user add

`set snmp user add version username access [passphrase] [level]`

シンタックスの説明	
<i>version</i>	簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) のバージョン (3 または 2c) を定義します。
<i>username</i>	SNMP ユーザ名 (バージョン 3) またはコミュニティ スtring (バージョン 2c) を定義します。ユーザ名には 1 ~ 32 文字を使用できます。
<i>access</i>	アクセスできる SNMP タスクを定義します。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • r (読み取り) • w (書き込み) • rw (読み取りと書き込み)
<i>passphrase</i>	SNMP バージョン 3 のみ。ユーザ パスフレーズを定義します。パスフレーズは、8 文字以上である必要があります。
<i>level</i>	SNMP バージョン 3 のみ。レベルを定義します。このフィールドに使用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • authNoPriv (デフォルト) • authPriv • noauthNoPriv

コマンドモード Admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン 新しいユーザまたはコミュニティを SNMP に追加するために使用します。8 個の SNMP ユーザを追加できます。



(注) SNMP バージョン 3 の場合、ハッシュは必ず MD5 で暗号化は DES になります。

例

```
admin:set snmp user add 3 testusr rw testpass authpriv
Successfully added user
```

```
admin:set snmp user add 2c test_RO r
Successfully added user
```

set snmp user del

set snmp user del *version username access [level]*

シンタックスの説明

<i>version</i>	簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) のバージョン (3 または 2c) を定義します。
<i>username</i>	SNMP ユーザ名 (バージョン 3) またはコミュニティストリング (バージョン 2c) を定義します。
<i>access</i>	アクセスできる SNMP タスクを定義します。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • r (読み取り) • w (書き込み) • rw (読み取りと書き込み)
<i>level</i>	SNMP バージョン 3 のみ。レベルを定義します。このフィールドに使用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • authNoPriv (デフォルト) • authPriv • noauthNoPriv

コマンドモード

Admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン

ユーザまたはコミュニティを SNMP から削除するために使用します。



(注) SNMP バージョン 3 の場合、ハッシュは必ず MD5 で暗号化は DES になります。

例

```
admin:set snmp user del 3 tim rw
Successfully deleted user
```

```
admin:set snmp user del 2c test_RO r
Successfully deleted user
```

set syslog facility

set syslog facility *facility*

シンタックスの説明	<i>facility</i>	デフォルトの Syslog メッセージ ファシリティを定義します。値は local0 ~ local7 です。
-----------	-----------------	---

コマンド モード	Admin
----------	-------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン Syslog メッセージに使用するデフォルト ファシリティを設定するために使用します。

例

```
admin: set syslog facility local1
Setting to local1 facility
```

set syslog heartbeat facility

set syslog heartbeat facility *facility*

シンタックスの説明	<i>facility</i>	デフォルトの Syslog ハートビート ファシリティを定義します。値は local0 ~ local7 です。
------------------	-----------------	--

コマンド モード	Admin
-----------------	-------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン ハートビート メッセージに使用するデフォルト ファシリティを設定するために使用します。

例

```
admin:set syslog heartbeat facility local1
Setting to local1 facility
```


set syslog heartbeat interval

set syslog heartbeat facility *interval*

シンタックスの説明	<i>interval</i>	インターバルを分単位で定義します。値は 0 ~ 2880 です。0 に設定した場合、ハートビートメッセージはディセーブルになります。
-----------	-----------------	--

コマンドモード	Admin
---------	-------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン	Syslog ハートビートのインターバルを分単位で設定するために使用します。このコマンドを 0 に設定すると、Syslog ハートビートメッセージはディセーブルになります。
------------	--

例	admin:set syslog heartbeat interval 10
---	--

set syslog heartbeat msg

`set syslog heartbeat msg text`

シンタックスの説明	<i>text</i>	ハートビート メッセージのテキスト文字列を二重引用符 (“text”) で囲んで指定します。
------------------	-------------	--

コマンド モード	Admin
-----------------	-------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン Syslog ハートビート メッセージのテキストを定義するために使用します。

例

```
admin:set syslog heartbeat msg "example message"
Setting message to "example message"
```

set syslog heartbeat severity

`set syslog heartbeat msg level`

シンタックスの説明	<i>level</i>	Syslog ハートビート メッセージの重大度を定義します。使用可能な値は 0 (緊急事態) ~ 7 (デバッグ) です。
-----------	--------------	---

コマンド モード	Admin
----------	-------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン Syslog ハートビート メッセージの重大度を設定するために使用します。

例

```
admin:set syslog heartbeat severity 7
Setting severity to 7
```

set syslog timezone

`set syslog timezone zone`

シンタックスの説明

<i>zone</i>	Syslog メッセージのタイムスタンプの時間帯を定義します。選択肢は次のとおりです。 local : 現地時間帯 gmt : グリニッジ標準時
-------------	--

コマンドモード

Admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン

Syslog メッセージのタイムスタンプに使用する時間帯を設定するために使用します。

例

```
admin:set syslog timezone gmt
```

set syslog version

set syslog version *version*

シンタックスの説明	<i>version</i>	Syslog メッセージの出力形式バージョンを定義します。選択肢は次のとおりです。 0 : CiscoLog バージョン 1.1 形式 1 : RFC Syslog Protocol Version 1 形式
-----------	----------------	--

コマンドモード	Admin
---------	-------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン	システム メッセージの出力形式バージョンを設定するために使用します。
------------	------------------------------------

例	admin:set syslog version 0
---	----------------------------

set threshold

set threshold *value*

シンタックスの説明

<i>value</i>	最大バースト パケットのしきい値を設定します。値は 0 ~ 200 です。
--------------	---------------------------------------

コマンド モード

Admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン

最大バースト パケットのしきい値を設定するために使用します。

例

```
admin:set threshold 50
```

set timezone

`set timezone timezone`

シンタックスの説明	<i>timezone</i>	設定するゾーンに該当するテキスト文字列または時間帯を入力します。使用可能な時間帯コードのリストを表示するには、 show timezone list コマンドを使用します。
-----------	-----------------	---

コマンドモード	Admin
---------	-------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.1	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン	新しい時間帯の値を設定するために使用します。このコマンドでは、CTMS サーバにシステムの時刻を設定します。
------------	--

例	<code>admin:set timezone Pac</code>
---	-------------------------------------

set web-security

set web-security orgunit orgname locality state country

シンタックスの説明

<i>orgunit</i>	組織ユニットを定義します。
<i>orgname</i>	組織名を定義します。
<i>locality</i>	組織の所在地を定義します。
<i>state</i>	組織の州を定義します。
<i>country</i>	組織の国を定義します。

コマンドモード

Admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン

新しいセキュリティ キーを設定するために使用します。

例

```
admin:set web-security mydept mycorp SanJose CA US
Successfully generated self signed certificate for tomcat
```


set workingdir activelog

set workingdir activelog *directory*

シンタックスの説明

<i>directory</i>	activelog の有効なサブディレクトリ
------------------	------------------------

コマンドモード

Admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン

activelog の CLI 作業ディレクトリを設定するために使用します。有効なサブディレクトリだけを使用できます。/と.をディレクトリ名の先頭に使用しないでください。検証するには **show workingdir** コマンドを使用します。

例

```
admin:set workingdir activelog syslog
```

set workingdir inactivelog

set workingdir inactivelog *directory*

シンタックスの説明	<i>directory</i>	inactivelog の有効なサブディレクトリ
-----------	------------------	--------------------------

コマンド モード	Admin
----------	-------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	1.5	このコマンドは初めて文書化されました。

使用上のガイドライン inactivelog の CLI 作業ディレクトリを設定するために使用します。有効なサブディレクトリだけを使用できます。/と. をディレクトリ名の先頭に使用しないでください。検証するには **show workingdir** コマンドを使用します。

例	admin:set workingdir inactivelog syslog
---	---